観光地域づくり法人形成･確立計画

記入日：令和７年　３月　３１日

１．観光地域づくり法人の組織

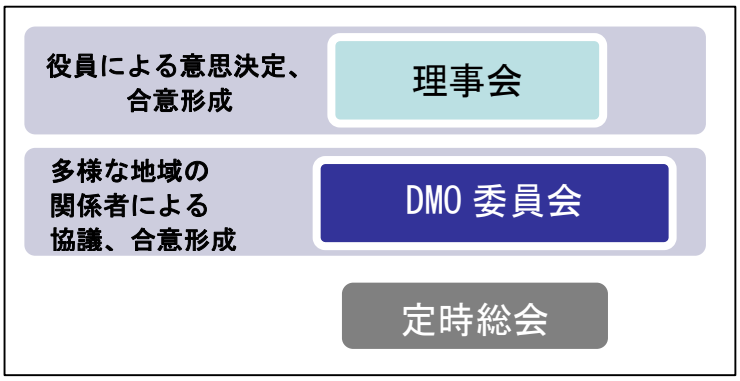
申請区分 ※該当するものを〇で囲むこと	広域連携ＤＭＯ･地域連携ＤＭＯ･地域ＤＭＯ	
観光地域づくり法人の名称	（一社）天王洲・キャナルサイド活性化協会	
マネジメント・マーケティング対象とする区域	区域を構成する地方公共団体名 東京都品川区東品川２丁目	
所在地	東京都品川区	
設立時期	２０１５（平成２７年）年１月５日	
事業年度	１月１日から翌年１２月３１日までの１年間	
職員数	１２人（常勤２人、非常勤１０人、（パートタイム２名　兼業８名）	
代表者（トップ人材：法人の取組について対外的に最終的に責任を負う者） ※必ず記入すること	三宅　康之「専従」	一般社団法人日本建築文化保存協会代表理事、 一般社団法人天王洲・キャナルサイド活性化協会代表理事。 水辺とアートをテーマに天王洲アイルにおける賑わい創出事業実施。
データ分析に基づいたマーケティングに関する責任者（ＣＭＯ：チーフ・マーケティング・オフィサー ※必ず記入すること	三宅　康之「専従」	一般社団法人日本建築文化保存協会代表理事、 一般社団法人天王洲・キャナルサイド活性化協会代表理事。 水辺とアートをテーマに天王洲アイルにおける賑わい創出事業実施。
財務責任者（ＣＦＯ：チーフ・フィナンシャル・オフィサー） ※必ず記入すること	三宅　康之「専従」	一般社団法人日本建築文化保存協会代表理事、 一般社団法人天王洲・キャナルサイド活性化協会代表理事。 水辺とアートをテーマに天王洲アイルにおける賑わい創出事業実施。
各部門（例：プロモーション）の責任者（専門人材）		

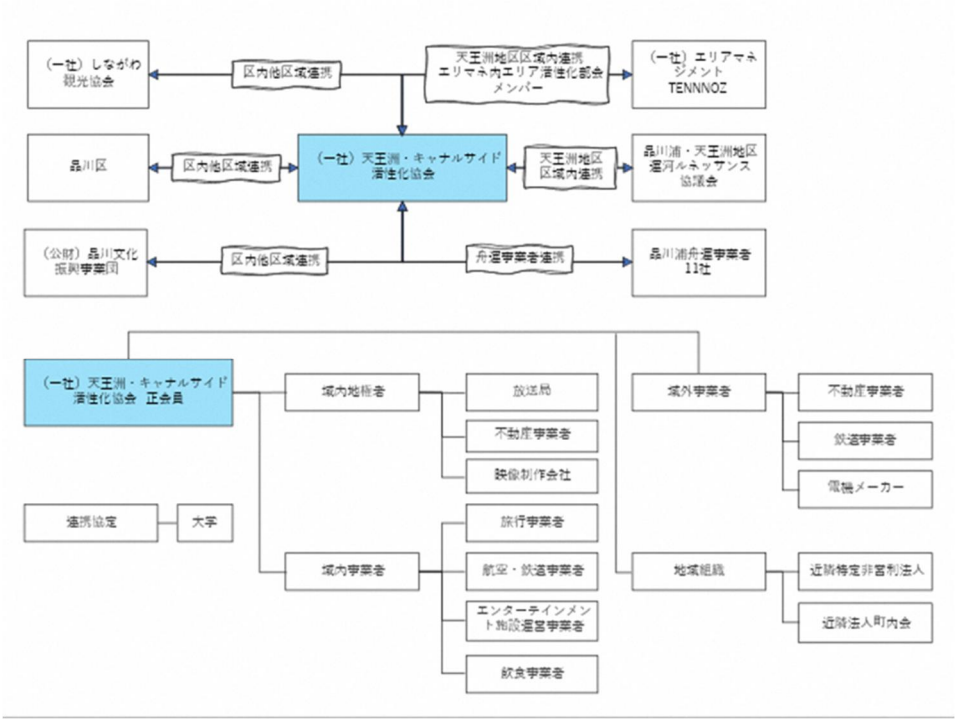
※各部門責任者のうち専従の者については、氏名の右横に「専従」と記入すること		
各部門（例：旅行商品の造成･販売）の責任者（専門人材）		
連携する地方公共団体の担当部署名及び役割	品川区文化観光スポーツ振興部文化観光戦略課（文化観光振興全般）	
連携する事業者名及び役割	（一社）しながわ観光協会（観光協会） （一社）エリアマネジメント TENNOZ（エリアマネジメント団体） （公財）品川文化振興事業団 東京モノレール(株)（一次交通） 東京臨海高速鉄道(株)（一次交通） 日本航空(株)（一次交通） 東横イン品川天王洲（宿泊） PETALS TOKYO(宿泊事業者) JTB(株)（旅行事業） パナソニックオペレーショナルエクセレンス(株)（デジタルソリューション） 代々木アニメーション学院（劇場運営） クルーズクラブ東京（クルーズ事業者） タイソンズアンドカンパニー（飲食事業） 寺田倉庫（イベント施設運営、宿泊施設運営） （大）東京海洋大学（大学） 宿場ジャパン（民泊事業者） WHILL（二次交通） 三河屋／平井／船清／大江戸／むつみ丸／中金／丸長／丸裕／幸吉丸／ZEAL／縄定（屋形船、舟運事業者）	
官民･産業間･地域間との持続可能な連携を図るための合意形成の仕組み	・年 6 回「水辺の勉強会」を開催し、活動報告や講演、視察等を実施 ・しながわ観光協会、文化振興事業団と月例の情報交換会を開催 ・DMO 委員会の開催	
地域住民に対する観光地域づくりに関する意識啓発・参画促進の取組	定期開催の天王洲キャナルフェスのコンテンツメニューとして地域小学生を対象に東京海洋大学と連携し「こども大学」を開催。その他体験ワークショップや水辺と親しむクルーズ乗船体験などを実施している	

法人のこれまでの活動実績	【活動の概要】		
	事業	実施概要	
	情報発信・プロモーション	・公式 HP、SNS などのオウンドメディアによる情報発信 Youtube 登録者数 402 人　投稿数 58 本 LINE 登録者数 1,566 人　投稿数 81 本 Instagram　登録者数 7,010 人　投稿数 125 本 ・イベント開催情報、募集告知など、最新トピックスのメディア向けプレスリリースの配信 配信数 39 件 ・域内情報発信 web サイトとの連携 ・省人化観光案内所サービスの整備 （アテンドステーションの 2024.1 導入に向けた実証） ・観光産業メディアへの寄稿 寄稿数 11 件	
	受入環境の整備	・2018 年水辺のライトアップ事業 天王洲アイル地区にかかる橋梁をライトアップし、夜景景観観光庁補助金 ・2023 年「インバウンドの地方誘客や消費拡大に向けた観光コンテンツ造成支援事業」活用。多言語案内省人化観光案内所サービス「アテンドステーション」の整備 ・2024 年「全国の観光地・観光産業における観光 DX 推進に関するマーケティング強化モデル実証事業」活用。CRM の導入整備。	
	観光資源の磨き上げ	・天王洲キャナルフェス 観客動員 2017 年(51,900 人) 2018 年(54,000 人) 2019 年(52,300 人) 2020 年(22,400 人・オンライン視聴含む) 2021 年(25,100 人・オンライン視聴含む) 2022 年(55,500 人)　※2017 年～2022 年　年 4 回開催 2023 年(62,500 人・年 3 回) 2024 年(46,000 人・年 2 回) ・キャナルアートモーメント品川 観客動員 2020 年(2,099 人) 2021 年(9,362 人・オンライン視聴) 2022 年(4,200 人) 2023 年(3,600 人) ・天王洲アートフェス 2019 年・2020 年・2021 年・2022 年・2024 年 屋外アート作品　24 作品	

		・しながわフェスウィーク 観客動員 2017 年(289 人)・2018 年(3,222 人)・2019 年(3,013 人) 2020 年(中止)・2021 年(1,962 人) ・東京 “屋形船”ナイトクルーズ・エンターテイメント 観客動員 2019 年(314 人) ・しながわ屋形舟キャンペーン 観客動員 2020 年(4,929 人)・2021 年(8,762 人) ・おもてなし舟運事業 観客動員 2022 年(1,620 人) ・天王洲アート観光拠点推進事業 2022 年 （観光庁助成「地域独自の観光資源を活用した地域の稼げる看板　商品の創出事業」） ・天王洲アートツアー 2023 年(随時参加型) （観光庁助成「インバウンドの地方誘致や消費拡大に向けた観光コンテンツ造成支援事業」） ・天王洲「休日の朝コト」観光プロジェクト 観客動員 2024 年(20,623 人) （東京観光財団助成「ナイトタイム等（夜間・早朝）における観光促進助成金」）		
	【定量的な評価】 イベントを中心に賑わいづくり活動を実施。年々参加者が増加をしていったコロナウィルス感染拡大の影響で規模縮小。22 年以降過去水準を取り戻してきている傾向にある。			
実施体制 ※地域の関係者との連携体制及び地域における合意形成の仕組みが分かる図表等を必ず記入すること（別添可）。	**【実施体制の概要】** （一社）キャナルサイド活性化協会が母体となり、メンバーには（観光業者、映像制作会社、放送局、交通事業者（航空、鉄道）、飲食事業者など幅広い業種の企業が参加しており、さらに品川区、（一社）しながわ観光協会（公財）品川文化振興事業団などとも連携しながら区の魅力発信と観光コンテンツを造成する。 （一社）エリアマネジメント TENNOZ を通じ、域内地権者、企業、店舗と事業者連携を図っている。			

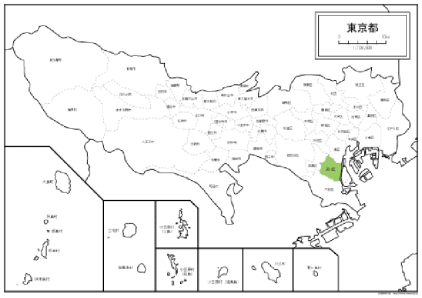
【実施体制図】

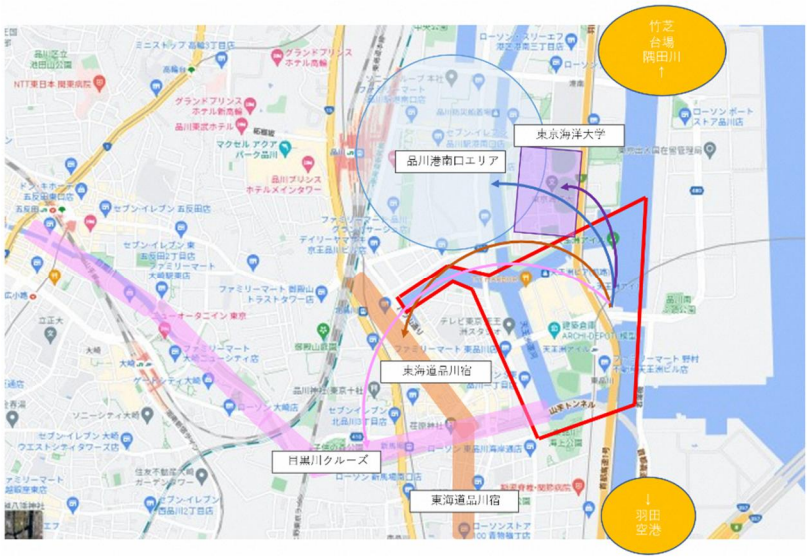




２．観光地域づくり法人がマネジメント・マーケティングする区域

【区域の範囲が分かる図表を挿入】





【区域設定の考え方】

2014 年法人設立以来、天王洲アイル（東品川 2 丁目）の賑わい創出、地域価値向上、水辺とアートの街づくりを目的に当法人は活動している。品川区の隣接地域また隣接の港区品川駅港南エリアとの連携で相互に協力を行い、相乗効果を図かる

【観光客の実態等】

・宿泊施設利用
・アート関連施設訪問
・イベント等への参加
・劇場への観劇

【観光資源：観光施設、商業施設、自然、文化、スポーツ、イベント等】

・天王洲銀河劇場
・天王洲シーフォートスクエア
・WHAT
・PIGMENT
・クルーズクラブ東京
・TYHARBOR
・天王洲キャナルフェス　集客数：年間約 5 万人

【宿泊施設：域内分布、施設数、収容力、施設規模等】

・東横イン品川天王洲　（740 室）
・PETALS TOKYO　（4 室）
・ANA ホリデイ・イン東京ベイ（132 室）

【利便性：区域までの交通、域内交通】

・区域内までの交通
　羽田空港から　東京モノレールにて 18 分
　品川駅から　バス 10 分または徒歩 15 分

・交通手段
　東京モノレール

りんかい線
都営バス

・域内交通
シェアサイクル
シェア電動キックボード

【外国人観光客への対応】
・アテンドステーションの導入
（日・英・中　3 か国語対応）2024 年 1 月

３．各種データ等の継続的な収集・分析

収集するデータ	収集の目的	収集方法
旅行消費額	来訪者の消費活動の動向を分析し、消費単価向上に繋げるため。	域内の宿泊、劇場、飲食、ギャラリー等の協力先に自主ヒアリングを行い集計。
延べ宿泊者数	宿泊者数の推移を把握するため。	域内の宿泊事業者にアンケートを活用して実施。
来訪者満足度	天王洲キャナルフェス 各店舗、施設のアンケート 満足度調査。属性調査。	域内の宿泊、劇場、飲食、ギャラリー等の協力先に自主ヒアリングを行い集計
リピーター率	リピーター顧客の動向を把握し、戦略立案に繋げるため。	域内の宿泊、劇場、飲食、ギャラリー等の協力先に自主ヒアリングを行い集計。
ＷＥＢサイトのアクセス状況	来訪者の消費活動の動向を分析し、消費単価向上に繋げるため。	域内の宿泊、劇場、飲食、ギャラリー等の協力先に自主ヒアリングを行い集計。

４．戦略

（１）地域における観光を取り巻く背景

天王洲アイル（品川区東品川 2 丁目）地区は 1990 年代の再開発により新たなウォーターフロントのオフィス街として注目を集めた。しかしながら、品川駅港南口の再開発などもあり、徐々に注目は薄れてきた。その後、近年では近接エリアの再開発が進みマンションが増え、居住地域としてベイエリアの人気エリアとなった。我々は街を取り巻く周辺環境の変化に伴い、新たな天王洲アイル地区の魅力創出と賑わいづくりを目的に活動を行った結果、観光コンテンツとしても充実が図られるようになった。そして、品川区が定める観光戦略と施策においても、本地区は水辺、舟運の観光拠点としており舟運を活かしたショートトリップ、水辺の親水エリアでの街歩きなどを促進する重点エリアに位置付けられている。また天王洲アイル地区の再開発コンセプトが「アートになる島、ハートのある街」ということもあり、様々なアート企画を開催し街の賑わいづくりを進めてきた。当協会では、天王洲アートフェスティバルを開催し、現在も 23 作品の常設作品が街中に点在している。また協会会員企業と協力し、プロジェクションマッピングをキャナルフェス等のイベントで開催してきたことが評価され、天王洲地区が東京都初となるプロジェクションマッピング活用地区認定を受けた。

（２）地域の強みと弱み

	好影響	悪影響
内部環境	**強み（Strengths）** **・自地域で積極的に活用できる強みは何か？** ・エリアが狭く、意思決定が迅速に可能 ・DMO が民間主体の組織構成で、民間の協力を得る体制が整っている ・域内の観光関連事業者が特定できており、データマーケティングの導入が容易 ・ハーバーエリアの景観やクルーズといった魅力的な資源を有する ・アート資源が豊富で通年でイベントを実施している	**弱み（Weaknesses）** **・自地域で改善を必要とする弱みは何か？** ・観光地としての認知度の低さ ・消費額単価が低い ・近隣来訪者が多く遠方来訪者が少ない ・ビジネス客が多く観光客が少ない ・インバウンド客の割合が少ない ・資源はあるが観光商品の造成が不足 ・付加価値の高いガイド付き等のツアーが少ない ・自由度の高い自主財源がない
外部環境	**機会（Opportunity）** **・自地域にとって追い風となる要素は何か？** ・円安も相まってインバウンドが急速に回復しており、インバウンド誘客のチャンス ・アートや高付加価値化の文脈で、観光庁や文化庁のコンテンツ開発に関する補助金が幅広く活用できる ・現在の主要顧客である東京都民の人口は引き続き増加傾向	**脅威（Threat）** **・自地域にとって逆風となる要素は何か？** ・国内の物価高騰により、日本人客の消費額単価は今後伸び悩むことが予想される ・都内他エリアの再開発・活性化が進んでいる ・都内他エリアでは“なんでもある”ことを利点とする観光を強みとしており、尖ったコンテンツ開発による差別化が不可欠

※上記に加え、ＰＥＳＴ分析等の他のマーケティング分析手法を用いて分析を行っている場合は、その内容を記入（様式自由）。

（３）ターゲット

○第一ターゲット層 インバウンドの中でも、特にアート鑑賞を目的に国外旅行を訪れる傾向のある欧米豪をメインターゲットとし、東アジア・東南アジアをサブターゲットとして設定する
○選定の理由 JNTO「VJ 重点市場基礎調査」(2024 年)によると、欧米豪の旅行者は国外旅行の際にアート鑑賞を目的とする傾向が強いことが明らかである。また、天王洲エリアでは羽田空港からのアクセスが良好で、旅の出発前後に立ち寄りやすい立地にあることから、限られた滞在時間でも気軽に訪れることができる。本エリアは、現代アートを鑑賞するだけでなく、アーティストとの交流や体験、作品の購入まで楽しめる独自の魅力を備えており、こうした特徴は、他の競合地域との差別化にもつながる。 ○取組方針 旅行出発前後に立ち寄れる体験型コンテンツを提供する。
○第二ターゲット層 都内全域のアート・散策好きなプチ富裕層（年収 1000 万円程度）

〇選定の理由
現行の来訪者は品川区・港区在住者が中心だが、今後は都内全域にターゲットを広げ、アートや散策、洗練された空間を好むプチ富裕層（世帯年収 1000 万円程度）を重点層として設定。
天王洲エリアは、ハーバーエリアならではの景観と通年で展開されるアートイベントを活かすことで、都心にいながら気軽に非日常的な時間を過ごせる場としての価値を提供できる。
この層は消費意識が高く、地域への経済効果も見込めるため、持続的な観光の推進と地域活性化の両面で重要なターゲットとなる。

〇取組方針
ターゲット層に響く付加価値の高い観光コンテンツを展開。

（４）観光地域づくりのコンセプト

①コンセプト	「働いてよし、住んでよし、訪れてよし」豊かな都市観光地域づくり
②コンセプトの考え方	「水辺とアート」という希少な景観空間を活かして独特な日常を生み出している天王洲アイル。さらには屋形船事業者、劇場などのまちなかエンタテインメントも充実している。これらに加えて隣接する東海道品川宿場町など歴史情緒あふれる街並みもあり、こういった多彩な事業者やコンテンツを融合させ魅力ある観光エリアとしての拠点づくりを推進し、働く人、住む人、訪れる人にとって魅力的な観光地域づくりを目指す。

５．関係者が実施する観光関連事業と戦略との整合性に関する調整・仕組み作り、プロモーション

項目	概要
戦略の多様な関係者との共有 ※頻度が分かるよう記入すること。	DMO 委員会の開催（年 2 回） 定例会の実施（月２回） 当協会企業、しながわ観光協会、品川文化振興事業団、パナソニックオペレーショナルエクセレンス、日本航空、ＪＴＢ参加会
	各関係者の活動状況、活動予定を共有。
観光客に提供するサービスについて、維持･向上・評価する仕組みや体制の構築	アンケートを実施して、反響を調査する 当協会で定期開催している「水辺の勉強会」で議論を行う
観光客に対する地域一体となった戦略に基づく一元的な情報発信･プロモーション	今後域内に観光案内所の機能を整備予定。 無人化やＡＩチャットボットによる事前裁きなども導入検討（2024 年 1 月）

※各取組について、出来る限り具体的に記入すること。

６．ＫＰＩ（実績・目標）

※戦略や個別の取組を定期的に確認・改善するため、少なくとも今後３年間における明確な数値目標を記入すること。
※既に指標となりうる数値目標を設定している場合には、最大で過去３年間の実績も記入すること。

（１）必須ＫＰＩ

指標項目		2022（Ｒ４）年度	2023（Ｒ５）年度	2024（Ｒ６）年度	2025（Ｒ７）年度	2026（Ｒ８）年度	2027（Ｒ９）年度
●旅行消費額（百万円）	目標	4,000	4,650	4,700	7,000	7,200	7,400
		(400)	(450)	(500)	(750)	(770)	(790)
	実績	4,553	6,738	6,944			
		(520)	(862)	(788)			
●延べ宿泊者数（千人）	目標	100	150	170	263	271	279
		(3)	(5)	(7)	(22)	(23)	(24)
	実績	143	279	256			
		(10)	(42)	(21)			
●来訪者満足度（%）	目標	90	92	92	92	92	92
		(92)	(93)	(93)	(93)	(93)	(93)
	実績	90	87	87			
		(91)	(90)	(91)			
●リピーター率（%）	目標	60	55	55	55	55	55
		(10)	(10)	(10)	(10)	(10)	(10)
	実績	54	55	58			
		(9)	(10)	(8)			

※括弧内は、訪日外国人旅行者に関する数値

目標数値の設定にあたっての検討の経緯及び考え方

【検討の経緯】
※ＫＰＩとして設定する項目や年次及び目標数値に関して、その検討のプロセスや考え方を項目ごとに出来る限り具体的に記入すること。
DMO 委員会の参加企業を中心に DMO 委員会において検討設定。

【設定にあたっての考え方】
●旅行消費額
DMO 委員会の参加企業を中心とした聞き取り調査により集計。2023 年度でコロナウィルス感染拡大の影響等も解消に向かい、消費額も復調傾向なことに加えて、天王洲アイル地区観光地化施策を進めることで宿泊数の増加などを促進させ 2023 年に 2019 年の数値まで回復することとし、2024 年度以降は約 3%の伸び率を目標設定する。
●延べ宿泊者数
エリア内に所在する宿泊施設の延べ宿泊数を集計。
コロナウィルス感染拡大の影響等も解消に向かい 2023 年に 2019 年の数値まで回復することとし、2023 年度以降については 2025 年に 2020 年以前の水準に回復することを目標値とし段階的に 3%増で設定する。
●来訪者満足度
イベント等企画開催時におけるアンケート調査を実施し結果の集計を行う
DMO 委員会の参加企業を中心とした聞き取り調査により集計。

●リピーター率
DMO 委員会の参加企業を中心とした聞き取り調査により集計。
前年実績を下回らないよう 55%で目標値を設定。
リピート率は維持しつつ新規数の増加を優先的に取り組む段階とする。

（２）その他の目標

指標項目		2022（Ｒ４）年度	2023（Ｒ５）年度	2024（Ｒ６）年度	2025（Ｒ７）年度	2026（Ｒ８）年度	2027（Ｒ９）年度
●Web サイトのアクセス状況【回】	目標	25,000	33,000	35,000	47,000	51,700	56,870
		250	400	420	2,100	(2,310)	(2,540)
	実績	31,761	32,415	42,787			
		406	462	1,916			
●	目標						
		（ ）	（ ）	（ ）	（ ）	（ ）	（ ）
	実績						
		（ ）	（ ）	（ ）			
●	目標						
		（ ）	（ ）	（ ）	（ ）	（ ）	（ ）
	実績						
		（ ）	（ ）	（ ）			
●	目標						
		（ ）	（ ）	（ ）	（ ）	（ ）	（ ）
	実績						
		（ ）	（ ）	（ ）			
●	目標						
		（ ）	（ ）	（ ）	（ ）	（ ）	（ ）
	実績						
		（ ）	（ ）	（ ）			

※括弧内は、訪日外国人旅行者に関する数値
※各指標項目の単位を記入すること。

指標項目及び目標数値の設定にあたっての検討の経緯及び考え方

【検討の経緯】
※ＫＰＩとして設定する項目や年次及び目標数値に関して、その検討のプロセスや考え方を項目ごとに出来る限り具体的に記入すること。
DMO 委員会の参加企業を中心に DMO 委員会において検討設定。
【設定にあたっての考え方】
●Web サイトのアクセス状況
天王洲キャナルサイド活性化協会公式 HP の実績を記載。
2023 年度までに基盤を整理し、以後年１０%弱の伸び率を目標とする
サイト内のコンテンツを充実させることで着実にアクセス数は上昇傾向にあるので、さらに情報を充実させアクセス向上を目指す

７．活動に係る運営費の額及び調達方法の見通し

※少なくとも今後３年間について、計画年度毎に（１）収入、（２）支出を記入すること。
※現に活動している法人にあっては、過去３年間の実績も記入すること。

（１）収入

年（年度）	総収入（円）	内訳（具体的に記入すること）
2022（Ｒ４） 年度	263,351,969（円）	【国からの補助金】観光庁 5,110,000 円 【都道府県からの補助金】 【市町村からの補助金】品川区 26,783,306 円 【品川区受託】182,176,590 円 【収益事業】キャナルフェス収入 3,113,753 円 【会費】　2,738,320 円 【特定財源（宿泊税、入湯税、負担金等）】　等 協賛金　43,430,000 円（円）
2023（Ｒ５） 年度	105,911,848（円）	【国からの補助金】観光庁 10,933,839 円 【都道府県からの補助金】 【市町村からの補助金】品川区 10,000,000 円 【品川区受託】39,276,592 円 【収益事業】キャナルフェス収入 11,588,589 円 その他収入 5,485,501 円 【会費】2,742,828 円 【特定財源（宿泊税、入湯税、負担金等）】　等 協賛金 31,370,000 円（円）
2024（Ｒ６） 年度	100,904,608（円）	【国からの補助金】 【都道府県からの補助金】東京観光財団 9,042,667 円 【市町村からの補助金】 【その他補助金】みなと総合研究財団 300,000 円 【品川区受託】32,923,291 円 【収益事業】キャナルフェス収入 5,066,190 円 その他収入　944,966 円 【会費】2,677,494 円 【特定財源（宿泊税、入湯税、負担金等）】　等 協賛金 49,950,000 円
2025（Ｒ７） 年度	133,922,000（円）	【国からの補助金】28,000,000 円 【都道府県からの補助金】 【市町村からの補助金】 【その他補助金】12,000,000 円 【品川区受託】32,000,000 円 【収益事業】キャナルフェス収入 10,422,000 円 その他収入 11,600,000 円 【会費】2,500,000 円 【特定財源（宿泊税、入湯税、負担金等）】　等 協賛金 37,400,000 円
2026（Ｒ８） 年度	83,900,000（円）	【国からの補助金】0 円 【都道府県からの補助金】 【市町村からの補助金】 【その他補助金】円

		【品川区受託】32,000,000 円 【収益事業】キャナルフェス収入　12,000,000 円 その他収入 円 【会費】2,500,000 円 【特定財源（宿泊税、入湯税、負担金等）】　等 協賛金 37,400,000 円
2027（Ｒ９） 年度	83,900,000（円）	【国からの補助金】0 円 【都道府県からの補助金】 【市町村からの補助金】 【その他補助金】円 【品川区受託】32,000,000 円 【収益事業】キャナルフェス収入　12,000,000 円 その他収入 円 【会費】2,500,000 円 【特定財源（宿泊税、入湯税、負担金等）】　等 協賛金 37,400,000 円

（２）支出

年（年度）	総支出	内訳（具体的に記入すること）
2022（Ｒ４） 年度	256,037,898（円）	【一般管理費】10,332,554 円 【情報発信・プロモーション】 17,354,041 円（国内 100%、海外 0%） 【受入環境整備等の着地整備】 【コンテンツ開発（観光資源の磨き上げ）】 【マーケティング（市場調査、ブランド戦略等）】 【観光イベントの開催費】　等　228,351,303 円
2023（Ｒ５） 年度	104,898,426（円）	【一般管理費】14,633,373 円 【情報発信・プロモーション】 17,379,630 円（国内 100%、海外 0%） 【受入環境整備等の着地整備】 【コンテンツ開発（観光資源の磨き上げ】 15,696,788 円 【マーケティング（市場調査、ブランド戦略等】 2,999,700 円 【観光イベントの開催費】 54,188,935 円
2024（Ｒ６） 年度	109,229,680（円）	【一般管理費】40,707,399 円 【情報発信・プロモーション】 13,115,334 円（国内 80%、海外 20%） 【受入環境整備等の着地整備】 【コンテンツ開発（観光資源の磨き上げ】 15,625,906 円 【マーケティング（市場調査、ブランド戦略等】 22,000,000 円 【観光イベントの開催費】 17,781,041 円
2025（Ｒ７） 年度	123,604,000（円）	【一般管理費】58,500,000 円 【情報発信・プロモーション】

		6,600,000 円（国内 80%、海外 20%） 【受入環境整備等の着地整備】 【コンテンツ開発（観光資源の磨き上げ】 3,500,000 円 【マーケティング（市場調査、ブランド戦略等】 【観光イベントの開催費】 55,004,000 円
2026（Ｒ８）年度	83,000,000（円）	【一般管理費】53,000,000 円 【情報発信・プロモーション】 5,000,000 円（国内 80%、海外 20%） 【受入環境整備等の着地整備】 【コンテンツ開発（観光資源の磨き上げ】 5,000,000 円 【マーケティング（市場調査、ブランド戦略等】 【観光イベントの開催費】 20,000,000 円
2027（Ｒ９）年度	83,000,000（円）	【一般管理費】53,000,000 円 【情報発信・プロモーション】 5,000,000 円（国内 80%、海外 20%） 【受入環境整備等の着地整備】 【コンテンツ開発（観光資源の磨き上げ】 5,000,000 円 【マーケティング（市場調査、ブランド戦略等】 【観光イベントの開催費】 20,000,000 円

（３）自律的･継続的な活動に向けた運営資金確保の取組･方針

区域を構成する地方公共団体における宿泊税の導入、着地型旅行商品の造成･販売等の取組･方針を記載
自主主催ツアー、自主主催イベントの開催等における収益確保により運営資金を確保する。

８．観光地域づくり法人形成・確立に対する関係都道府県・市町村の意見

※設定対象区域の都道府県及び市町村が、本法人を当該都道府県・市町村における観光地域づくり法人として認める旨を含む意見を記入すること。
品川区は一般社団法人天王洲・キャナルサイド活性化協会を当該区における地域ＤＭＯとしての登録について承諾し、一般社団法人天王洲・キャナルサイド活性化協会とともに申請します。

９．マネジメント・マーケティング対象区域が他の地域連携ＤＭＯ（県単位以外）や地域ＤＭＯと重複する場合の役割分担について（※重複しない場合は記載不要）

【他の地域連携ＤＭＯや地域ＤＭＯとの間で、重複区域に関する連携や役割分担等について協議を行った（行っている）か】
　重複しない
【区域が重複する背景】

【重複区域における、それぞれの DMO の役割分担について】
※重複する活動がないか、第三者から見た際に合理的と捉えられる役割分担になっているか等を踏まえて記入すること。

【前述の役割分担等によって、効率的、効果的な活動の遂行が期待できるか】

１０．記入担当者連絡先

担当者氏名	田嶋拓也
担当部署名（役職）	理事
郵便番号	140-0002
所在地	東京都品川区東品川２－６－１０
電話番号（直通）	０７０－５５４３－２５８２
ＦＡＸ番号	
Ｅ－ｍａｉｌ	tajima.takuya@canalside.or.jp

１１．関係する都道府県・市町村担当者連絡先

都道府県･市町村名	東京都品川区
担当者氏名	明石賢郎
担当部署名（役職）	文化観光スポーツ振興部 文化観光戦略課 観光係長
郵便番号	140-8715
所在地	東京都品川区広町２－１－３６
電話番号（直通）	０３－５７４２－６９１３
ＦＡＸ番号	０３－５７４２－６８９３
Ｅ－ｍａｉｌ	bunka-kanko-kanko@city.shinagawa.tokyo.jp

（候補／登録）【登録区分】地域DMO（一般社団法人天王洲・キャナルサイド活性化協会）

様式２

記入日：　令和　年　　月　　日

基礎情報

【マネジメント・マーケティング対象とする区域】
東京都品川区東品川二丁目
【設立時期】　2015年1月5日
【設立経緯】
区域に観光協会があるが、役割分担等をした上でDMO新設
【代表者】　三宅康之
【マーケティング責任者（CMO）】　三宅康之
【財務責任者（CFO）】　三宅康之
【職員数】12人（常勤2人、非常勤10人、（パートタイム2名　兼業8名）、
【主な収入】
収益事業6百万円、委託事業32百万円、協賛金49百万円（2024年度決算）
【総支出】
事業費109百万円、一般管理費40百万円（2024年度決算）
【連携する主な事業者】
（一社）しながわ観光協会、（公財）品川文化振興
事業団、（一社）エリアマネジメントTENNOZ他

KPI（実績・目標）

※（　）内は外国人に関するもの。

項目		2022（R4）年度	2023（R5）年度	2024（R6）年度	2025（R7）年度	2026（R8）年度	2027（R9）年度
旅行消費額（百万円）	目標	4,000（400）	4,650（450）	4,700（500）	7,000（750）	7,200（770）	7,400（790）
	実績	4,553（520）	6,738（862）	6,944（788）	—	—	—
延べ宿泊者数（千人）	目標	100（3）	150（5）	170（7）	263（22）	271（23）	279（24）
	実績	143（10）	279（42）	256（21）	—	—	—
来訪者満足度（%）	目標	90（92）	92（93）	92（93）	92（93）	92（93）	92（93）
	実績	90（91）	87（90）	87（91）	—	—	—
リピーター率（%）	目標	60（10）	55（10）	55（10）	55（10）	55（10）	55（10）
	実績	54（9）	55（10）	58（8）	—	—	—

戦略

【主なターゲット】
　インバウンドの中でも、特にアート鑑賞を目的に国外旅行を訪れる傾向のある欧米豪をメインターゲットとし、東アジア・東南アジアをサブターゲットとして設定する
【ターゲットの誘客に向けた取組方針】
　・旅行出発前後に立ち寄れる体験型コンテンツを提供する【観光地域づくりのコンセプト】
　・「働いてよし、住んでよし、訪れてよし、」
　豊かな都市観光地域づくり

具体的な取組

【観光資源の磨き上げ】
・アートツアーの造成
・案内ガイドアプリの導入
　スマートタウンウォーカー

【受入環境整備】
・多言語化案内ガイドの導入
・アテンドステーションの導入

【情報発信・プロモーション】
・SNSの活用
・海外向けメディアでの発信
・海外モニター実施
・CRM運用開始

【その他】
・視察受け入れ
・勉強会の開催